

## 研究評価委員会

「環境・医療分野の国際研究開発・実証プロジェクト／準天頂衛星情報利用システム」

(事後評価) 制度評価分科会

### 議事録

日 時：平成28年12月16日（金）13：00～17：55

場 所：WTC コンファレンスセンター Room B（世界貿易センタービル 3階）

#### 出席者（敬称略、順不同）

##### <評価分科会委員>

分科会長	柴崎 亮介	東京大学 空間情報科学研究センター 教授
分科会長代理	礒 尚樹	株式会社NTT データ 第一公共事業本部 e-コミュニティ事業部 部長
委員	今給黎 哲郎	国土交通省 国土地理院 企画部 地理空間情報国際標準分析官
委員	坂下 哲也	日本情報経済社会推進協会 常務理事 電子情報利活用研究部 部長
委員	浪江 宏宗	防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科 防衛教官

##### <推進部署>

弓取 修二	NEDO ロボット・AI 部 部長
村上 樹人	NEDO ロボット・AI 部 統括主幹
西田 洋一	NEDO ロボット・AI 部 主査(PM)
原 大周	NEDO ロボット・AI 部 主査
藤井 祐造	NEDO ロボット・AI 部 主査

##### <実施者※メインテーブル着席者のみ>

佐藤 一敏	JAXA 衛星測位システム技術ユニット 主任開発員
飯星 明	本田技研工業株式会社 技師
益田 卓朗	本田技研工業株式会社 主任
徐 晶	本田技研工業株式会社
細川 浩平	株式会社ゼンリン 研究開発室 副長
村上 優晃	株式会社ゼンリン ADAS 事業推進室 技師
長田 泰子	株式会社ゼンリン ADAS 事業推進室 副長

##### <評価事務局等>

徳岡 麻比古	NEDO 評価部 部長
原 浩昭	NEDO 評価部 主査

## 議事次第

(公開セッション)

1. 開会、資料の確認
2. 分科会の設置について
3. 分科会の公開について
4. 評価の実施方法
5. 制度の概要説明

「位置付け・必要性について」、「マネジメントについて」、「成果について」

(非公開セッション)

6. 制度の詳細説明
  - 6.1 ①「ASEAN 地域における基礎データ収集および補強信号の精度評価」
  - 6.2 ②-1「QZSS 高精度位置情報を活用したテレマティクスの市場性調査」
    - ②-2「プローブデータにおける QZSS 高精度位置情報の利用評価」
  - 6.3 ③「QZSS を利活用した基盤地図補正および基盤地図更新の有効性評価」
  - 6.4 ④「QZSS の利用促進及び普及啓蒙を図るアウトリーチ活動」
7. 全体を通しての質疑

(公開セッション)

8. まとめ・講評
9. 今後の予定、その他
10. 閉会

## 議事内容

(公開セッション)

1. 開会、資料の確認
  - ・開会宣言 (評価事務局)
  - ・配布資料確認 (評価事務局)
2. 評価分科会の設置について
  - ・評価分科会の設置について、資料1に基づき事務局より説明。
  - ・出席者の紹介 (評価事務局、推進部署)
3. 評価分科会の公開について
  - 評価事務局より資料2及び3に基づき説明し、議題6.「制度の詳細説明」および議題7.「全体を通しての質疑」を非公開とした。
4. 評価の実施方法について
  - 評価の手順を評価事務局より資料4-1~4-4に基づき説明した。
5. 制度の概要説明
  - 「位置付け・必要性について」、「マネジメントについて」、「成果について」
  - 推進部署より資料6-1に基づき説明が行われ、その内容に対し質疑応答が行われた。

【柴崎分科会長】 ただいまのご説明に関して、主に事業の位置付け・必要性、マネジメントについてご意見をいただきたいと思ひます。

【磯分科会長代理】 公募要領の中で「相手国研究機関・企業等との協力体制が出来ているかを重視」と書かれていますが、実際に組んだ相手は国系の機関のように見えます。こういうサービスをタイ国で実施するならば、国の事業として実施すべきだと思ひてそうされたのか、まずは国から入って企業と連携していこうと考へたのか、連携という観点でどのように見ているのかお伺ひしたいと思ひます。

【西田 PM】 タイ国の政変直後だったこともあって、事業が始まってからは、まず国と NEDO がしっかりと連携したうえで実施していきたいということがありました。公募の時点では政変が予期できたわけではないので、現地で自動車の輸出等で実績がある本田社は、非常に頼もしい事業者だと考へました。また JAXA は準天頂衛星を打ち上げた当事者なので、連携を超えて価値があるのではないかと考へました。実施計画書の中に記入いただひていましたが、JAXA は NECTEC (タイ国立電子コンピュータ技術研究センター)、チュラロンコン大学 (タイ国)、ESCAP (国連アジア太平洋経済社会委員会) と協力しており、さらに現地に事務所を持っていることも聞いていたので、これは要項に非常に合致したチームワークだと判断させていただきました。

【磯分科会長代理】 相手国の企業という観点での質問です。

【西田 PM】 相手国の個別の企業が前面に出た実施計画は、なかなか読み取れませんでした。質問の範囲からは外れますが、実際に現地でやっていくうえで法的なことを調べて、ゼンリンは現地の地図作製企業と密接な関係を構築するなど努力されて、地図データの持ち出しができないという、この事業の致命的な部分を乗り越えています。

質問から外れるのはわかっていますが、結果的に現地の地図作製事業、国際的な地図作製業者同士の連携で、国同士の不必要と思われるような壁も取り払っていきけることが逆にわかったのは、この事業の大きな成果の一つだと思ひます。

【弓取部長】 補足します。タイ側は準天頂衛星がいかにパワフルかがまったくわからないので、提案時点では今度地図をつくらうとか、代理店にならうとか、パートナー企業まで踏み込んだ提案はなかったというのが実情です。

しかしながら西田 PM が「現地で本田社が」と申し上げたように、マーケットインするためのルートは持っているという提案があったので、実証を通じて結果的に現地企業ときちんとアウトプットを出せるかたちでの協業を目標に遂行できそうな実施者ということで選ばせていただきました。

【柴崎分科会長】 評価の中で制度の目的と制度の目標があります。目的は実用化やビジネスモデルの構築に向けた課題の抽出を図るとなっていますが、目標はアウトプット目標のことですか。次のスライドは「位置付け・必要性について (目標)」で「制度の目標 (H27 年度最終目標)」とありますが、その中に課題が何も書いてありません。「測位可能エリアを拡張」と「サブ m 級や cm 級の測位を可能とする」と書いてあるだけですが、課題の抽出は目的ではあっても目標ではないということですか。

【西田 PM】 非常に難しい質問ですが、課題の抽出に関しては微に入り細を穿つ部分があります。先ほど成果のところでお話しした部分で、このような課題が見つかったのですが、海外で実際に実験して、サービスとして現地の方に認識していただき、現地ですでに広がっているスマホにソフトウェアをインストールして、準天頂を使ってもらって、実際にこうだということを知ってもらい、ソフトを広げていくというところで課題抽出はできています。ただ細かいことまで目標としてあえて掲げなかったと言ひましようか。事業期間内でも技術の進展があるので、おそらくそういうことだったのだろうと予想します。

【柴崎分科会長】 なぜこんなことをお聞きしたかというところ、準天頂衛星の構成と測位の適用先は必ずしも車だけではなくて、最近の動きを見ると農機、建設機械、荷役関係など、外で動くいわゆる「ガテン

系」の機械に幅広く使える可能性があると思います。

NEDO で実施している事業は、まさにその先兵です。先ほどデータの国外移転の話がありましたが、今後そういう議論がいろいろなところで出てくるはずです。ですから、ほかの分野でどれだけ実行できそうなのか、どういう課題があるのか、何ができて何ができないのか、どこが難しいのか、ここは政府が関与しなければ無理だというのが目標にちゃんとあると良いと思います。

結果そのものは、デモとしては非常にうまく行っていて、サクセスストーリーが描けていますが、ビジネスとしての継続となった瞬間に見える風景がまったく変わってきます。そのときにどういう風景になる可能性があるのかが、もう少し出ると良かったと思います。

公募のマネジメントのところでの評価と書いてありますが、応募件数が 1 件しかなくて、しかも対象が地図と車だけです。地図と車は日本の産業で言えば、国際的に展開して大成功している組み合わせなので悪くないと思いますが、これは機械制御やいろいろなことに使えるので、そこにつながるアウトリーチの仕方がマネジメントの工夫としてあったかもしれません。

それは公募段階でも、その後の成果の普及のところでも同様です。もちろん発表や展示も大変重要ですが、この結果をほかのところではどういう課題があるのかというように、もう少し波及しやすい格好に整理されていると良いと思いました。

**【西田 PM】** まったくおっしゃるとおりです。実施方針を決めるときに分科会長に参加していただいたかっただと思います。むしろ鉄道、航空など、この事業から出る話を NEDO はもっと深く理解して、問題点の抽出をするべきだったと思います。ありがとうございます。

**【弓取部長】** 一応延長期間を設けて提案を公募しましたが、おっしゃるように QZSS（準天頂衛星システム）の利用について事前に幅広く、これからタイで実施しようと思っているので、実施してみたい企業はありませんかと発掘しておく努力が、われわれも足りなかったと思います。

結果的に地図とナビゲーションを利用する自動車で 1 件出てきましたが、われわれの事業は費用的に莫大なものではなくて、将来の道筋の一つの呼び水を垂らすような機能を持っています。そういう意味では成果として一番わかりやすく、マーケットに早くインできるということで、結果的には良かったのかもしれない。

ただご指摘のように、この事業だけではなくて日ごろからいろいろな事業を展開するにあたって、事前の調査・発掘が必要だと思っています。ありがとうございます。

**【飯星技師】** 分科会長の言われたことを実施者として考えると、いかにこれを実施するときに苦労したか、どういう課題があったかをまとめてくださいというご指摘だと感じました。

**【柴崎分科会長】** もちろんそれもあります。データ移転の話や基準点の設置は、意外とタッチで大変だったということもありますが、もう一つは、測位精度はものすごく環境に依存するので、どこで測ったかが非常に重要です。

バンコク市内で、こういう環境ではこのぐらいの達成度だ。もし鉄道に使ったら、都市鉄道では、この区間はさすがに厳しい。オープンスカイのところは大丈夫そう。建設機械も同様ですが、一つはそういう整理の仕方もあると思います。

どちらかというと、この世界はチャンピオンデータで勝ち負けを判断するイメージがあります。そういう宣伝はとても簡単だし、わかりやすいので、そちらに走りがちですが、このプロジェクトは皆が使うある種の巨大なインフラをどう広げていくかという観点なので、そういう整理の仕方があると思うと良いと思います。

**【飯星技師】** 衛星測位のシステムを実施されている方は確かにチャンピオンデータばかりなので、「使う側の自動車としては、それでは使い物になりません」とよく言っていました。それで自分たちで測るようになりましたが、それは後で報告いたします。

測るときに仮設電子基準点を設置するとか、政府やいろいろなところとの交渉とか、結構苦勞がありました。確かにそういう苦勞等をまとめると次にやられる方にとっては非常に良いと思います。ありがとうございました。

【坂下委員】 ここはNEDOの開発・実証プロジェクトについて意見を述べる場だと思うので、個別の部分ではないのですが、今回はほかに類がなく初めて実施したと書いてあります。私も海外を巻き込んだ事業に絡むことが多いのですが、こういうスキームで2年間まわしてみてもNEDOにどういう知見が残って、それは今後どのように生かされるのでしょうか。

【西田PM】 NEDOでは海外実証事業をたくさん実施していますが、今回は宇宙分野も巻き込んで、交通という広いフィールドを使っています。街の中で、知らない人がたくさん見ている中でこういう実証事業をやるという意味でも初めての事業だったと思います。

NEDOの事業が街の中に出ていく。それも海外で、バンコクのように人口密度が高くいろいろな人種の方がおられるところで科学的データを出していく。先ほど「タッチーな」と言われましたが、いろいろ難しいところがありました。成果報告書にも詳しく書かれていますが、そういう過程は、特にASEAN地域に展開していくうえで非常に良い経験になったと思っております。

【弓取部長】 海外実証事業はいろいろ実施しますが、今回の実証事業はナショナルセキュリティというか、地理データなので、扱いについて相手国が非常に敏感で、軍事政権になったこともあって話がなかなか進みませんでした。

海外実証事業は相手国のためにも実施しますが、もちろんわが国にもフィードバックしなければいけません。ただ、そこで得られた地理データをどうやってわが国で有効活用するかという点で、非常に交渉が難しく合意するのに難航しました。相手方のセキュリティにかかわる部分は最初から政府機関を巻き込んで話を進めていかないと、後で「ノーだ。一切持って出てはいけない」と言われると困ったことになるので、この辺で非常に勉強になった事業です。

【坂下委員】 私が申し上げたかったのは、こういう事業で執行側の立場で壁があるなら、それをきちんと知見として残して、次によりトライアルな制度に昇華させていく努力が必要だということです。

実施して「壁がありました。以上終了」で「今度はこういうものはやめましょう」という話になってはいけないと思います。それで、どういう知見が残ったのかという質問をしましたが、いまの回答でいたい理解しました。ありがとうございました。

【浪江委員】 6ページの「NEDOが実施する意義」のところで「NEDOがもつASEAN地域での活動実績を活かし」という文言がありますが、今回具体的にはどうということが生かされたのか教えていただけますか。

【西田PM】 NEDOはタイに事業所を持っていて、現地大使館等ともつながりを持ち続けていると同時に、各産業界の方ともつながりがあるので、事業者を紹介して横つながりができましたし、タイ工業省の方々にも「現地でこういうことをやるけれども良いですか」と前振りができました。そういう意味ではASEAN地域の、特にタイで実施できたことはNEDOにとっても良かったと思っております。

【柴崎分科会長】 この当時はあまり意識されていなかったかもしれませんが、測位インフラは要するにはほかのところとの競争で、明確に言うと中国との競争なので、BeiDou（北斗衛星測位システム：中国）を使ったものとの比較です。

これは今後の課題の一部かもしれませんが、売っていく以上は目的・目標の中に、準天頂衛星も使うとこういうところで競争上優位になり得る、ここは難しい、ここは負けているという競争相手の実力の調べるのがあっても良かったと思います。

【西田PM】 BeiDouについてはASEAN地域でのサービスが非常に緻密になってきています。サービス料金もほとんど取らなくて、完全にフリーで、いろいろな情報が得られる状況です。

ここは事業者の方からご意見をいただければと思いますが、私は、商品が入っている強みは確かにあると思います。タイに行くとも中国の車はほとんど走っていないので、トヨタ社と本田社の車ばかりです。

本田社の車に QZSS を使ったものがビルトインされるアプリケーションはベトナムでも展開される可能性があります。2 輪車もそうです。本田社の 2 輪車が走り回っているの、それにビルトインして、製品の機能とマッチアップさせたアプリケーションを考えていくのは中国より日本のほうが、優位性があるのではないかと思います。

【柴崎分科会長】 どうもありがとうございました。次は議題 6 と 7 になりますが、知財保護等の観点から非公開となります。議題 8 から再度公開とします。

(非公開セッション)

#### 6. 制度の詳細説明

省略

#### 7. 全体を通しての質疑

省略

(公開セッション)

#### 8. まとめ・講評

【浪江委員】 感想になりますが、限られた時間と予算の制約の中で、他の日本の団体や企業に先駆けて現地調査を行って、非常に多くのデータを収集されたと思います。ここで止まらず継続することを希望しますし、ベトナムで継続して行われるとのことですので、今後も沢山のご発表や展示、利用促進、普及啓蒙活動、また引続き NEDO の支援もお願いできればと思います。

先ほど「ハードだけではなくて現地の方の教育もひとまとめで」というお話がありましたが、私の所属している測位航法学会では、毎年サマーキャンプで、現地の方々を日本にお呼びして、日本の準天頂衛星を含めた GNSS (全地球測位航法衛星システム) 教育をして、知識を現地へ持ち帰って頂き、その後の研究交流をはかるという活動を継続して行っております。柴崎分科会長の GESTISS (宇宙・地理空間技術による革新的ソーシャルサービス・コンソーシアム) も同様なことをされているのではないかと思います、そういうものも活用して進めていければと思います。

それから市場性の調査があったと思いますが、今回、他の発表も個別でしたので、一つのプロジェクトではなくて、少しバラバラのように感じました。「市場性がこうだから、こういう技術を使って、こういう事業を行えば、あなたの国にはこれだけの利益が産み出されます」というように、全体として繋がりが有るようなまとめ方をされてはいかかかと思えます。

最後に応募件数です。採択の審査にもかわらせて頂きましたので思うのですが、1 件だけというのは少ないので、なんとか最低でももう 1 件は応募して頂けるように、より積極的な広報活動を希望致します。

【坂下委員】 今日はどうもありがとうございました。NEDO の最初の資料に、経産省の新産業創出研究会の話が出てきました。私も委員でしたが、平成 26 年以前の準天頂衛星を取り巻く状況は、政府の人がすごく騒いでも、民間ではフーンという感じの人が多くて、利活用を実施することはリスクでした。そういうものに対して NEDO が公募を行って、当時の SNS 等の書き込みを見ても「すごいな」という声が上がっていて、非常に前向きなものだったと思います。

私がとても感心したのは本田社とゼンリン社という事業者が参加するとともに、JAXA と ENRI (電子航法研究所) という基礎研究のプレーヤーが入っていることです。イノベーションを起こすためには

二つの方法があります。一つはパラダイムを持続するというやり方で、これは新しい技術を生かすことに専念します。もう一つはパラダイム破壊型で、これは0から1を生む話ですが、基礎研究のところが入って、0から1を生む可能性を秘めているので、取り組みをやって非常に良かったと思っています。

今後期待するのは、この流れが切れないようにすることです。まだまだ企業はリスクマネーの部分が多いので、その手当てで連続性の担保や規制緩和を引き続きやる必要があると思います。どうもお疲れ様でした。

**【今給黎委員】** これだけの大きい仕事を全部まとめられた事業者の方々に尊敬の言葉をお送りしたいと思います。私がおこにいる意味として、衛星測位の部分についてのコメントを求められていると思うので申し上げます、準天頂衛星を海外で使ってもらおうという意味を持った開発を日本国として考えているのであれば、今回行われたタイでの測位の精度評価、L1-SAIF (submeter-class augmentation with integrity function)、CMAS (利用実証用センチメートル級測位補強システム)、MADCOCA (高精度軌道・クロック推定ツール) を、だれかがどこかできちんと検証しなければいけません。

本当は内閣府や人工衛星メーカーが自ら実施して当然だという気もしますが、この事業でNEDOが実施して、きちんと結果を出して、これが公表されるというのは非常に大きな意義があります。

先ほど「学会等で」という話もありましたが、これを単なる報告書で出すとリファアされたときの価値が低いので、アカデミックなジャーナルもしくはエンジニアリングのものに、結果をまとめて出すことを検討したほうが良いと思いますし、私はそれだけの意義があると思います。

それから業界から政府、内閣府に対して、いつサービスができるのか、コストはどうなのかと声を上げることが必要です。L6、L1-SAIFなどのチップも、だれもが使えるような端末に乗らないと結局だれも使ってくれないのではないかと思います。今回調べた結果としてそれが出ているとすれば、それを突き付けて、その方向に進むように業界が「これをやらないとだめでしょう」と言うのは、意味のあることだと思います。

**【磯分科会長代理】** お疲れ様でした。坂下さんが言われたように、民間企業と基礎研究の方々が組むというのは非常に素晴らしいスキームだったと思います。私はQBIC (高精度衛星測位サービス利用促進協議会) の海外展開ワーキングのリーダーをやっていますが、いろいろな測位の仕方でも精度評価する初めてのプロジェクトだと思います。民間企業も基礎的な評価をしてもらったうえで出ると、あらためてそれをやるのでは全然違うので、この結果はぜひ公開していただきたいと思っています。

地図も大事というところで地図のルールです。これを利用しようと思ったときに、それぞれの企業が考えるのでは足かせになるので、その点に関して非常に有益な情報だと思います。地図の各国のルールに関して今回知見が得られたと思うので、積極的に公開していただけるとありがたいと思います。

今回はタイで次はベトナムということですが、今回のタイはシーズ的な要素が多かったと思うので、ニーズを聞いていないのであれば、今回の成果とニーズを併せて、次にどう進むかというところをぜひ進めてもらいたと思います。

それをフィードバックして海外へ向けたサービスで、4機で、MADCOCAでやってみようという機運をつくるとか、7機で、準天頂衛星のエリアを少し広げることを考える可能性もなきにしもあらずで、ニーズという観点で盛り上げていただければと思います。お疲れ様でした。

**【柴崎分科会長】** タイのようなところに行って地図をつくり、かつ高精度測位で何かやるという、いろいろな意味でチャレンジングなトピックに取り組んでいただいて、本当にありがとうございました。NEDOもご支援いただいて、本当にありがとうございます。

そもそも日本は衛星測位をビジネスとして自分たちでやったことがないのですが、今後海外でそれをやらなくてはならないというところで、いろいろな課題が見えてきました。たとえばデータの越境の話もありますし、キャパシティビルディングを相手と一緒に実施しなければいけないとか、準天頂衛星

のサービスをめぐる議論がどうしても国内志向になっていて、海外に対するアナウンスやアウトリーチが十分ではないということは、ある意味で非常に重要なフィードバックです。それをぜひ適切なところに広報宣伝して、アピールしていただけると良いと思います。

今回は車の話を中心ですが、日本は製品的にはすごく強いので、そこを突破口として鉄道の話にも生きるし、建設機械や農業機械もあります。JICAの人は「日本でも農業機械にそんなことをしていないのに、なぜ途上国で実施するのですか」と言いますが、測位の世界は日本とタイですごく差があって、タイはまだまだインフラも何もないから測位は使えないということはまるでありません。

そういうところのほうで携帯電話の普及が速いのとまったく同じです。むしろ熟練したオペレーターがいなくて、完全自動化はしなくても、建設機械も高精度測位を使って実施したほうが品質も担保できて良いという話はあると思います。

また車線ごとの車の動きから、どう信号をコントロールしたら良いかという話は、かなりAI的な話題です。あえて言うとロボット・IoT系なので、そういう意味でのこれからの新しい展開です。日本国内はいろいろな意味で実施しにくいこともあるので、それを海外で行ってみるというのは、データの話など課題はいろいろあっても、それはそれですごく意味があると思います。そういう側面も含めて、今後もぜひNEDOのご支援をいただけると良いと思います。

タクシーの最適オペレーションも、スマホのアプリと組み合わせるとすごく可能性が広がります。燃費も全部見ているので、どれだけ二酸化炭素排出が減るかも実測できる世界です。特にああいいうアプリを使うと、極端なことを言えばタクシーは流す必要がなくなります。お客さんがいそうなところで止まって待っていて、来てからピュッと動いて、パクッと自分の好きな方向に行きたいお客さんだけを選択的に取れば良いのです。

バンコクはタクシーが多すぎて凄く混んでいるとも言われています。少し減るだけでも渋滞は結構変わるので、意外と実効があるかもしれません。そのためには飯屋技師が「道の反対側にいると、バンコクはUターンが滅茶苦茶大変なので衛星測位の精度が良くないとだめだ」と言われたのは、まったくそのとおりです。そういう展開も考えていくと意外とインパクトは大きいと思います。

**【弓取部長】** 本日は長時間にわたり、いろいろと有用なコメントをいただきましてありがとうございます。

この事業だけではなくてどの事業でもそうですが、喧々囂々議論して、自信を持って、良かれと思って実施していても、実施している最中は一所懸命で夢中になっていますから、NEDOも実施者の皆さんも含めて、本当にどうなのか、よくわからずに実施しているところがあると思います。

もちろん自信は持っています。ですから、この事業が本当に良かったかどうかは、ぜひ5年後、10年後を見ていただきたいと思います。こういう事業が起点になって、準天頂衛星の利用に一層拍車がかかって、いろいろなところで、あれは便利だ、あれは使うべきだ、わが国でも使わせてほしい、NEDOがやった事業はインパクトが大きかったということになれば、結果的にこの事業は良いことをやったと思えるのではないかと思います。

われわれは細い道ではあっても一筋の道筋を信じて、斜面に1滴の水を流したわけです。その道筋が本当に正しければ、いろいろな水が合わさって大きな川になっていくと思います。そのためにもいろいろなところで、1滴でも良いので水を垂らしてみようという気持ちでおります。そういうことを継続すれば、われわれのやったことが正しければ合わさって大きな川になっていくと思っています。そういう観点で、これからも継続して取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

9. 今後の予定

10. 閉会



## 配布資料

資料 1	研究評価委員会分科会の設置について
資料 2	研究評価委員会分科会の公開について
資料 3	研究評価委員会分科会における秘密情報の守秘と非公開資料の取り扱いについて
資料 4-1	NEDO における制度評価・事業評価について
資料 4-2	評価項目・評価基準
資料 4-3	評価コメント及び評点票
資料 4-4	評価報告書の構成について
資料 5	事業原簿（公開）
資料 6-1	制度の概要説明資料（公開）
資料 6-2	制度の詳細説明資料（公開）
資料 7	今後の予定

以上